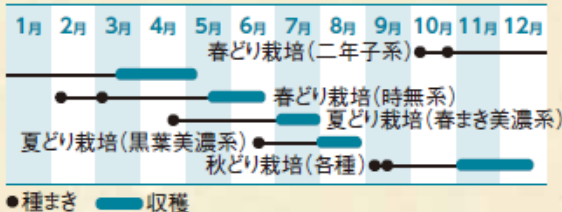




品種
・耐病緑太り
・おでん大根2号 など

栽培カレンダー



ダイコン

栽培のポイント

①よく耕し、石などの異物を取り除こう！

土壌の適応性が広く、やせ地でもよく育ちます。耕す深さが浅すぎたり、未熟な有機物や石などが当たったりすると根が変形しやすいので、十分に耕し、土中の異物を取り除いてから栽培するようにしましょう。

②アブラムシに注意

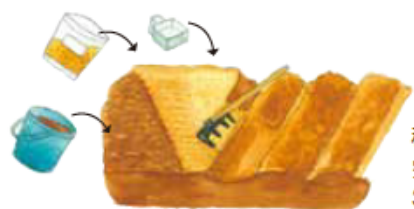
大敵であるモザイク病のウイルスは、アブラムシによって^{でんぼ}伝播されます。反射性のシルバーマルチを敷いたり、防虫ネットやべた掛け資材の使用、また、種まき前に殺虫剤を散布したりするなど、害虫防除を徹底しましょう。

③間引きは形のよい子葉を残す

子葉は、左右の大きさに差があったり奇形だったりすると、根の形も崩れやすくなります。それらを優先的に間引き、ハート形の子葉を残しましょう。

1 畑の準備

前作が片づき次第、石灰をまいて耕しておく

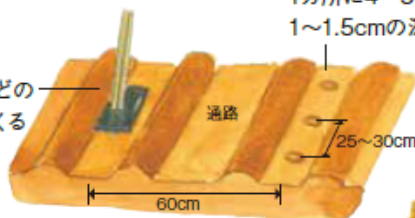


(1㎡当たり)
完熟堆肥:5~6握り
化成肥料:大さじ2杯
油粕:大さじ4杯

種まきの半月以上前に良質の完熟堆肥と肥料を与え、30~35cmの深さによく耕す

2 種まき

鍬幅で
深さ3cmほどの
まき溝をつくる



1カ所に4~5粒ずつ種をまき、
1~1.5cmの深さに覆土する

大型の品種は
株間を広くとる

ジュースの缶などを押しつけ、
地面にできた円の形にそってまけば、種が片寄らない



直径5~6cm

3 間引き・土寄せ

発芽ぞろい



第1回

本葉1枚のころ3本に。間引いた後、株元へ手先で軽く土を寄せる

間引きのとき

子葉の形がよいものを残す



生育初期に子葉の形が整ったものは根形がよく、整わないものや大きすぎるものは根の形も崩れやすい

第2回

本葉3~4枚のころ
2本に。株元へ軽く土を寄せ、ふらつかないようにする

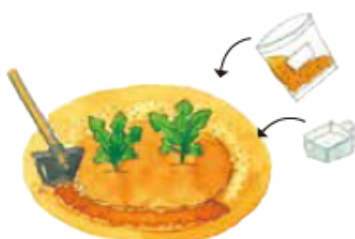


第3回(最終間引き)

本葉6~7枚のころ、
1本立てにする



4 追肥



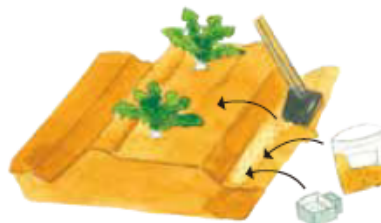
第1回(1株当たり)

化成肥料:小さじ1杯
油粕:小さじ1杯
第2回間引き後、株のまわりにばらまき、軽く土と混ぜ合わせる



第2回(1株当たり)

化成肥料:大さじ1杯
油粕:大さじ2杯
第3回の間引き後、畝の片側にばらまき、鍬で土と混ぜる



第3回(1株当たり)

化成肥料:大さじ2杯
第2回追肥の半月後、反対側にばらまき畝を形づくる

5 収穫

上方に向かって勢いよく伸びていた葉が開きざみになり、外葉が垂れるようになったら収穫の適期。収穫が遅れるとずが入り空洞化してしまう

